

周産期母子医療センター（新生児部門）

1. 概要

当院新生児医療センターは、NICU12床を擁し、東三河唯一の総合周産期母子医療センター（新生児部門）に指定され、東三河新生児医療の中心的役割を担っている。重症な児を遠方に搬送することは児の予後に悪影響を及ぼすことから、入院依頼を受けた児は断らないことをポリシーとし、最後の砦としての役割を果たしている。

当院は、地域中核災害拠点病院に指定されており、前センター長である小山典久が周産期リエゾンとして広域災害訓練に参加するなど、災害対策にも取り組んでいる。また、地域の新生児医療のレベルアップを図ることも重要な役割と考え、地域で周産期医療に携わる医師、助産師、救急隊員等を対象に、新生児蘇生法講習会を開催している。特に小児科（新生児）第二部長の杉浦崇浩は、日本周産期・新生児医学会の新生児蘇生法普及事業ワーキンググループにおいて中心的な役割を果たし、国際蘇生連絡委員会（ILCOR）に出席して議論に加わるなど、国内外で活躍している。

（センター長 村松 幹司）